

# 琉球大学学術リポジトリ

## 普及事業のあしあと

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21108">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21108</a>

# 農家便り 100号によせて

1955年12月に、この小冊子を創刊して以来、一回の休みもなく、8年余の年月をかきわて、ここに100号を迎えることができました。

その間、われわれ関係者は、誌上を通じて、専ら衣食住の改善に、また農業技術の啓培に尽力してきました。

省みますと、この8年の間に、製糖工場の新設と増設がありました。またパイン栽培面積の増加と、これに伴う加工場の増設もあって、今年の缶詰量は100万ケースに近づいています。

然るに、貿易自由化の波や、余剰農産物の輸入によって、或いは電力の普及や物価高による消費面の追打ちを通じて、農民の生活は、大幅にゆさぶられています。

呼応せねばならない、農業上の改革は、必ずしもこれらに歩調を合せて居らないが、だからと申して、大平の夢をつぎけているわけではありません。

例へば、研究機関の面では、農試場の規模の拡大とか、琉大農試の新設がなされ、また政府によって農業センターの計画もすすめられています。

地或によっては、農地の拡張や農道の開さくがあり、ボーリングによる農地澁がすすめられています。

それに畜産では、鶏や豚や牛の優良品種が導入されて飼育規模も、しだいに大きくなっています。全島緑化運動は林業改善に拍車をかけています。

近くは、農業基本問題調査会の設置もあって、農業憲法とも申すべき農業基本法の実現を見るのも、近いことでしょう。これを政府が、強気に推進すれば、適正規模の農家が育成されるのは勿論、他産業と収入の格差が少なくなり、農家の社会的位置の安定も保証されることでしょう。

かくて農業者の前進の足おとがきこえてくるようです。

わが「琉大農家便り」は、従来も、多方面の取材を忘れていませんが、今後は一層活眼をひらいて、前進をつずける農村生活や農業改新の指針となるかくごで居ます。各方面の一層の御援助をお願いいたします。 (関係者一同)

## 普及事業のあしあと

本学部の普及事業は1955年10月に創設され、ここで8年半の才月を迎えたことになります。それは琉球大学の建学の理念に基づき、学内における応用可能な農畜林業及び家政の分野の科学的研究の成果を全琉の人々に広く普及するという一つの校外教育であります。

近くは都市近郊の農村から遠くは宮古、八重山の僻地まで農村開発のトレードマークの下に普及活動は活発に展開されてきました。その間、特に農村人を して新しい技術を修得せしめ、また自主的農民を育成するために凡ゆる効果的な普及方法が用いられてきました。即ち展示会、講習会、映写会、普及冊子、新聞、ラジオ、テレビなど。

この度、農家便り第100号を記念して本学部普及活動の過去と現在を記録写真で紹介すると共に、本誌の愛読者の便宜を図って 創刊号以来のタイトル目録を作ることにしました。 (古謝瑞幸)



トミシガン州立大学派遣顧問団員のバーナード・D・クーン氏は琉大普及事業創設の尽力者である 写真は学部の乳牛試験室を見る同氏(中) 1956年3月



生活改善普及活動の草分け 台所をあずかる主婦のための料理講習会が家政学科職員によって開南小学校で開かれた 1956年2月



農村の主婦が最も関心をもつミソ作り講習会が初めて1956年3月、大里村役所で行われた 講師は宮里典信助教授



お互いの問題を持ち寄り ひざをまじえて懇談会 みんなに都合のいい夜間を利用して開かれた 1956年3月宮古城辺小学校で 語る人は島袋俊一教授



最初に開かれた病虫害展示会 熱心に高袋教授の説明をメモする参観者たち 普通この様な展示室が5教室も各地で設けられた 1956年3月 平良市北小校で

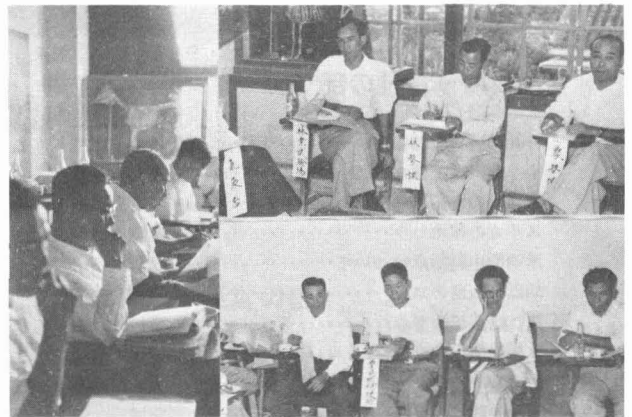


第一会場

国頭村辺土名で催された展示会の被服展示室の一部 子供連れの主婦も入替り立替り大いに賑わった 1956年8月



1957年2月久米島の具志川 仲里の両村で病虫害 農産加工 生活改善の講習会が開かれた 写真は病虫害展示室で高良鉄夫教授の説明に聞入る参観者たち



本学部が主催して病虫害共同防除対策討論会が学内で開かれた 参加者は関係官庁及び民間団体の代表に学部の職員 1957年10月



本学部主催による養鶏デーが関係指導者と養鶏家を集めて学内で開かれた 1958年9月



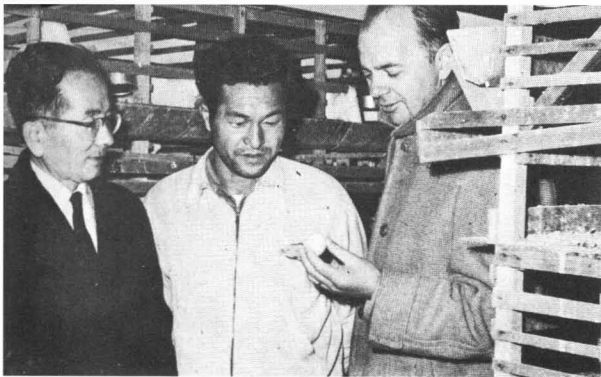
学童の栄養調査研究が家政学科の職員と民政府の共同で行なわれた 写真は対象校の一つ仲里小校で母親たちを集めて結果報告会を行う尚弘子講師とマーシャル大佐 1960年3月



教育映画は秀れた視聴覚教材で普及活動には欠かせぬものである 写真はスクリーンの前で日が暮れるのを待つ八重山移住地の子供達 1960年8月



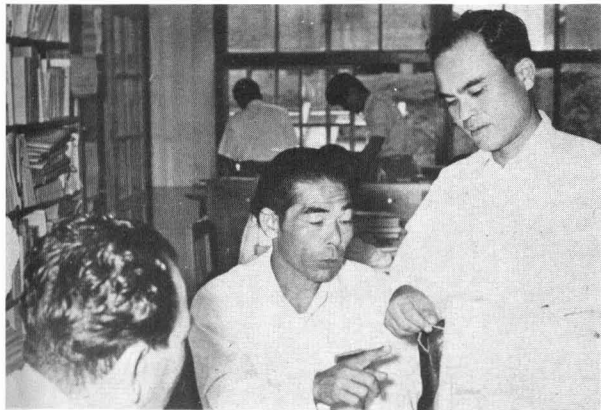
琉球の農畜林業及び家政の振興策討論会が大学祭の記念行事の一つとして催された 参加者は関係官庁及び民間団体の代表連に学部全職員 1960年11月



④ 学部の職員は問題を求めて農村めぐりもするが、その都度現場指導も行う 写真は民間養鶏場を訪ねる松田祐一助教授(左)右はR. F. カールソン教授(ミシガン州立大学) 1956年



④ 大学の試験場で得られた応用可能な試験結果は早速地方に流される 写真は新しいエサ サイレージの作り方の講習会 1960年8月 下地町で 講師は宮城常夫助教授



④ 勤勉な農民は絶えず専門家の門戸を叩く事を忘れない 写真は遥々上本部村の養豚家(中)が学部を訪ね 自家製のサイレージについて見て貰うところ 左は比嘉信吉講師 右は宮城常夫助教授



④ 大学祭は市民と大学のつながりを盛上げる機会である その中で普及事業は展示と相談室を設け教育活動を行う 写真はおすなおすなの普及展示室 1962年12月



④ ラジオは最も効果的なマスコミ教材である 学部では放送社と協力して普及ニュースを農村に送ります 写真は放送記者のインタビューをうけて録音する古謝普及係



④ 明日の沖縄農業者育成のために学部の普及事業はFFOクラブに対し大きな関心を抱いている 写真はFFO大会の耕耘競技の審査員として活躍する泉裕己講師 1961年3月 北農で



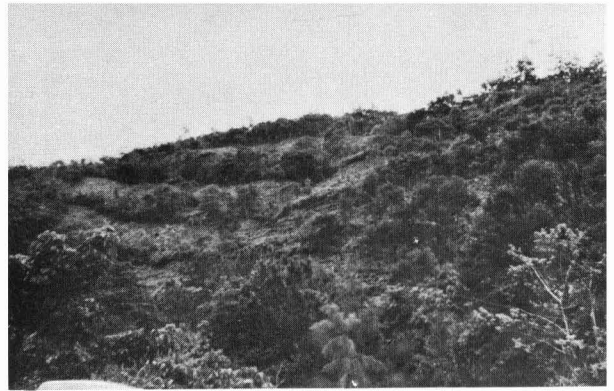
④ 生活改善普及活動の一環として那覇琉米文化会館では家政学科の職員により毎月定期的講習会が開かれる 写真は翁長君代教授による講習会風影 1963年



④ 今日の本学の普及事業の主なもの一つは普及員の訓練である 写真は熱心に鎮西忠茂教授の講義をうける農業改良普及員たち 1962年8月 名護農試で



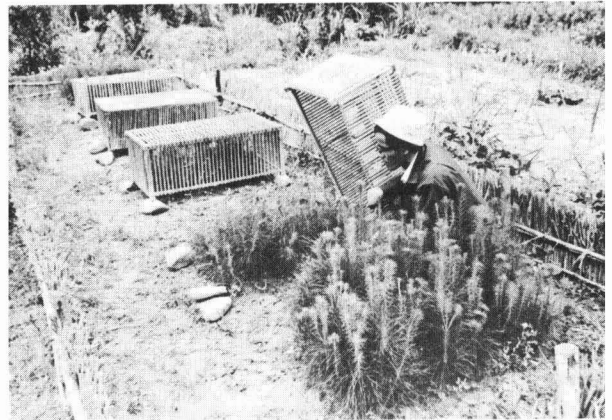
与那演習林（国頭村在）の管理室 職員や学生の研究のための宿泊設備もこの中にある



演習林は琉球林業の基礎的研究のみならず緑化運動推進のための研究も行なわれる 写真はリュウキュウマツの造林試験地の一部



竹林の肥料木混播テスト これは根りゅう菌による土壌改善がねらいである 肥料木としてはタイワンハンノキ ソウジユ モクマオウ アカシヤモリシマなどを使ってある



リュウキュウマツ苗木の庇陰テスト これは苗畑の苗の密度と日光との関係のテストである 研究にたずさわっているのは山盛直講師

### 年度別普及活動状況（1956～1963年）

